

添付資料①

【JALグループ 新ユニフォーム デザインコンセプト】

運航乗務員

日本という国を代表して、長い間の信頼に応える黒のダブルスーツに、安心感を示す金の袖章をアクセントにした格調あるデザイン。帽章、胸章に新JALマークが金色に輝き、周りの翼は、未来に向かって大きく翔たく形になりました。安心・信頼・伝統を表現したスタイルです。

客室乗務員

お客様からのみならず、着用している客室乗務員からも評価が大変に高い、JAL現行ユニフォーム(1996年10月導入)での実績を踏まえ、新ユニフォームのデザインは、引き続き稲葉賀恵(いなばよしえ)さんをお願いしました。新ユニフォームは、「信頼感と洗練」をコンセプトとし、強い一体感を伝えるデザインとしております。

女性客室乗務員のユニフォームには、現代の都市型の嗜好にマッチしている色として、チャコールグレーを採用、ピンク、ブルーのスカーフやエプロンをコーディネートすることにより明るさと優しさを表現しました。

また、前任客室乗務員は白と紺のスカーフでプロフェッショナルとしてのシャープさを表現しています。

男性客室乗務員のユニフォームはミッドナイトブルーのジャケットに統一し、信頼感を打ち出しています。ネクタイは細かいレジメンタルタイで上品にまとめました。

地上スタッフ

○空港・市内支店

日本の伝統と誇り、空への思いを込め、使用する生地に日本文様を取り入れて、伝統美の持つ優雅で心温まる美しさを表します。ジャケット、ベストにはかつて礼装用に用いられたといわれる「菱紋」を全体に折り込みました。また、スカーフには、無限の広がりと海がもたらす幸福を呼び起こす文様とされた「青海波文」をイメージモチーフに取り入れ、太陽を表すJALマークのアーチと結びつけて、空に広がる幸福を表現しています。

○整備士

黒を印象的に配したユニフォームは、JALの原点である“安全”を最前線で支える整備士の誠実さ、正確さ、妥協を許さないプロフェッショナル意識を表します。カバーオールに代表される作業ユニフォームには、背中にJALマークを大きくあしらい、お客様への安全と信頼をお約束します。シンプルなデザインでありながら主張を持ったデザイン、随所に細かな造作を施し、優れた機能性と安全性を備えたユニフォームです。また、整備長のユニフォームには、肩章を付け、リーダーとしての風格と象徴性を表しました。

添付資料②

【JALグループ 客室乗務員新ユニフォーム デザイナー紹介】

稲葉 賀 恵

YOSHIE INABA

- 1939年 東京に生まれる
- 1958年 横浜雙葉学園卒業
- 1960年 文化学院美術科卒業
- 1963年 原のぶ子アカデミー洋裁学園卒業
- 1964年 オートクチュール制作のアトリエを開く
- 1970年 アパレルメーカー株式会社ビギ設立。ブランド「BIGI」発足
- 1972年 ブランド「MOGA」発足
- 1981年 ブランド「yoshie inaba」発足
第25回 日本ファッション・エディターズ・クラブ賞受賞
- 1988年 ブランド「L' EQUIPE YOSHIE INABA」発足
- 2001年 ブランド「LaPeriodo yoshie inaba」発足
- 2002年 グッドデザイン賞審議委員を務める
日本貿易振興会JETRO「一村一品運動」に参加

【ライセンス商品】

1986年ネクタイ、1987年ハンカチの発表に続き、スカーフ、タオル、眼鏡、靴、きもの、鼈甲眼鏡及びアクセサリー、バス・トイレタリー商品など、次々と発表。

【企業制服デザイン】

企業制服のデザインとして、サントリーホールや花王ソフィーナ、日本信託銀行、オムロン、青森銀行、東急電鉄・東急バス、そして1996年には、日本航空・客室乗務員の新しいユニフォームを発表。

2002年には(株)アルビオン、(株)ミキモト、横浜雙葉学園、

2004年4月より着用予定のJAL、JAS統合新JAL・客室乗務員の新しいユニフォームを手がける。

以 上